

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 5年 9月 15日

公表:令和 5年 9月 30日

事業所名: KIZUNA 調布

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	<ul style="list-style-type: none"> 法令を遵守したスペースは勿論ですが、運動できるスペースを確保しており、国の基準の2倍弱の広さを確保している。 感染症対策で、2mの距離を保つようにこの3年間運営してきた。その際は子ども達にわかりやすく目印をつけている。 	・特になし。
	2	職員の配置数は適切である	9	1	<ul style="list-style-type: none"> 法令で定められている配置基準に加え、保育士や専門職を配置する体制をとっており、十分な配置数で療育を行っている。 適切ではあるが、突発的にスタッフが休んだ時には忙しなく感じる時がある。 クラス編成時に児童の数を調整し、適切な支援ができるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 制度上は問題ないが、児童指導員、保育士、理学療法士等といった職種も様々で、シフトを組んで運営しているため、1日の出勤人数等は可能な限り均等にしている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	3	<ul style="list-style-type: none"> 必要な場所には絵カードを使用してわかりやすいように工夫している。 余計なものは置かず何がどこにあるのか見渡してわかるようにしている。 作業、運動に集中しやすいような空間作りと、児童にわかりやすい物品の配置と整備をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 入口の段差が気になるが、建物の共有部分により改修ができないため、保護者、お子さまに注意を促していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のサービス終了時に換気、床清掃、道具の消毒を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も通所するお子さまの様子に合わせた、環境整備を常に行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の業務でスムーズにいかなかったことは、多くの職員で共有しミーティングで意見を出し合い改善に努めている。 フィードバックだけでなくメニューを決めるツールにも目標を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の職員のみが業務改善について考えていくのではなく、全職員で考えていく。 事務所のレイアウトが変り、職員が話しやすい環境になったので、皆で主体的に関わっていきけるようにしていく。職員が変わると一部の職員の参加になりやすいので、そこは業務を分担したり、担当者を変えて対応していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見を取り入れ、療育面に反映させている。 評価表は保護者の貴重な意見をいただけるので、満足につながるように改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、事業所の判断で改善できるところは、できるだけ早めに改善を行っていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、ホームページで公開している。 	・特になし
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	1	・特になし	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価を令和3年2月に実施し、できることから改善に繋げている。 令和5年8月より、第三者評価を実施している。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	1	<ul style="list-style-type: none"> 調布市主催の研修を中心に職員全員が幅広く参加できるように調整している。 外部研修により、応用行動分析や感覚統合の理論も学ぶようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだことを事業所内で共有し、療育に活かせるように考えていく。 新人社員が入る度に、研修の順番・内容が適切であったか検証する機会を作り、次の研修に繋げていく。 調布市主催の研修には全員参加しているため、ミーティング等で情報共有を図っていく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 5年 9月 15日

公表:令和 5年 9月 30日

事業所名: KIZUNA 調布

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	8	2	・主観的にならないように、支援計画は児発管と指導員全員で検討し、作成している。 ・サービス提供記録、一言情報、保護者からの話などを熟慮し計画に反映している。	・心理士や作業療法士によるアセスメントは必要に応じ実施してきたが、常勤職員ではないため定期的に行えないため、今後は定期的に行える体制を他事業所とも連携し考えていく。
	11	7	3	・フェイスシートで児童の情報は事前把握し日々の様子を一言情報に残し次の支援に活かしている。	・心理士による「MEPA-R」、作業療法士等による「JSIR」については、数件の導入となっているため、今後内容を見極め、対応を検討していく。
	12	10	0		・今後は、移行支援や地域支援についても、相談支援専門員と連携し対応することを検討していきたいと考えている。
	13	11	0	・支援計画の目標をサービス記録の中に記述し、計画を意識できるようにしている。 ・プログラムを作成するツールに、すべての児童の支援目標を反映させている。 ・WEB上で個人の目標を管理し、それを踏まえてプログラムの作成を行っている。	・今後も、支援計画に則った支援に対し、評価基準も作成し、PDCAを行っている。
	14	7	3	・専門的な運動はリードを取る先生が主なプログラムを作り皆で共有し検討している。 ・毎回フィードバック時にメニュー内容を立て直している。 ・リードの指導員が立案し、その後、他の職員に共有し意見があれば反映をしている。	・特になし
	15	11	0	・運動はクラスや季節ごとにプログラムを変え、特性やその日の子どもの様子、成長度合いに応じてフレキシブルに変えている。 ・毎回、児童に合わせて変えている。	・特になし
	16	9	1	・個別活動のほか、ルール遊びやごっこ遊び、フットサルなど皆で関わりがもてる集団活動のプログラムも支援計画に適宜反映している。 ・活動クラスも小集団クラスと集団クラスを設けていたが、感染症対策のため、現在は集団クラスは分散させている。	・来年度の制度改正を見据えながらの対応となるが、集団で適宜、創作を入れたりするなど、より幅をもった支援を提供していく予定。
	17	8	2	・支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。 ・事前ミーティングでメニューと目標、注意事項を確認している。	・特になし
	18	10	0	・支援終了後には1人1人の子どもの様子を振り返り、課題や次回に向けての対応を書面に残している。 ・職員全員が発言できるように話合っている。	・特になし
	19	10	0	・記録をとり(サービス提供記録、一言情報)データとして残し、職員全体で検証している。	・特になし
20	10	0	指導員の記録している振り返りシートとサービス記録に必ず目を通し、実際の様子をモニタリングして、課題の見直しにつなげている。	・特になし	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 5年 9月 15日

公表:令和 5年 9月 30日

事業所名: KIZUNA 調布

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	・特になし	・今のところサービス担当者会議の機会がないので、依頼があれば検討していきたいと考えている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	6	・特になし	・要望がなく、その機会がないので、機会があれば検討していきたいと考えている。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			(対象外)	(対象外)
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			(対象外)	(対象外)
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	6	・就学支援シートや情報提供シート等を提供することで、共有を図っている。 ・直接の共有はないが、保護者を通じて共有している。	・通所している児童が、小学校に進学し、他の放課後等デイサービスを利用する際には、一部情報提供しているが、件数は増やしていきたいと考えている。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	4	・就学支援シートや情報提供シート等を提供することで、共有を図っている。 ・直接はないが、保護者を通じて共有している。	・特になし
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	3	・子ども発達支援センター主催の公開療育や連絡会に参加している。 ・連絡会に参加し情報を共有している。 ・調布市の子ども発達センターの巡回サービスも積極的に受けている。	・特になし
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	8	・1年に1回、地域交流の一環としてスポーツを楽しめるイベントを、外部と協力のうえ行っている。	・特になし
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	7	・社会福祉協議会との連携は行っている。	・特になし
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	・家庭や園での様子を短い時間ではあるがヒアリングし、毎日のミーティングで共有している。	・特になし

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

討議年月日:令和 5年 9月 15日

公表:令和 5年 9月 30日

事業所名: KIZUNA 調布

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	6	・特になし	・現状は行っていないが、心理士や専門職(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士等)による家族支援も検討していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	・契約書と重要事項説明書については、直接説明をし、運営規定については閲覧できるファイルを保護者の目の届く場所に置いている。	・運営規定については、保護者の閲覧ファイルにて周知できているが、直接説明は行っていないので必要に応じ説明をしていきたいと考えている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	・児童発達支援の提供すべき支援のねらいに基づき、6ヶ月以内に1回作成し保護者から同意を得ている。	・特になし
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	・適宜、ご相談があった際には丁寧に対応をしている。	・特になし
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	3	・令和4年に保護者会を実施し、保護者席に親の会のチラシを置き自由にとれるようにしている。	・特になし
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	・適宜、ご相談や申入れがあった際には、職員間で共有し適切かつ迅速に対応をしている。	・特になし
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	4	・会報は発行していないが、必要に応じ、HPやお手紙、LINE、ポスター貼付して発信している。	・特になし
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	・個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。	・サーバーを設置し、個人情報のデータはこれの中で管理しているが、今後は個人情報管理規程などを制定し管理していく予定。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	・口頭のみでなく書面等でお伝えしたり、先方の事情を考慮し対応している。	・特になし
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	8	・機会に応じ常に見学は受け入れている。	・今のところ特別な行事は行っていないが、行う際には地域住民を招待するなど、地域交流を図っていききたいと考えている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	0	・マニュアルは事務所内に掲示している。	・マニュアル類は揃っているが、状況に合ったマニュアルに変更されていない部分もあるため、実用可能なマニュアルに変えていきたいと考えている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	・年に1回実施している。令和4年度は、全員が参加できるように6月12～18日の1週間に実施し、実施時は実施記録を作成し、内容や様子を残している。	・特になし
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	1	・救急を要する疾患がある児童のファイルにシールを貼りわかりやすくしている、また一言情報にも反映し始まるミーティングで適宜共有をしている。	・特になし
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	2	・現在は食物を提供することがないが、念のためアレルギーホットラインに加入している。	・現在、通所のお子さまで医師の指示書はないが、あれば指示に基づき対応していく予定。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	・その都度記録し、全職員で共有して、今後の対応策を話し合い実践している。 ・ヒヤリハットがなかったが、毎回確認し、あったときは記録に残し対策を話している。	・特になし
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	1	・東京都の権利擁護、虐待防止研修や市の虐待研修に必ず参加し、社内研修で共有している。 ・令和4年より虐待防止が義務付けとなり、委員会を開催し事業者内で周知している。	・特になし
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	3	・自傷、他害があるお子さまがいた場合には、先生と一緒に別室でクールダウンをするようにしている。	・今年より、虐待防止委員会を法人で設置し、身体拘束についても議案の中で議論しているが、今後も随時行っていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。